

『かたらい広場』

日 時 平成 27 年 2 月 5 日 (木)
午前 10 時 00 分～午前 11 時 00 分
会 場 龍ヶ崎市役所市長室
団体名 あんしんウェーブ
市 中山市長 松田室長 大久保室長補佐 佐々木課長補佐

【主な意見の要旨】

○団体

- ・まちづくり戦略プランで「子育て環境日本一」という基本目標を掲げているが、この目標についての考え方を聞きたい。
- ・市として、子育て世代の定住促進のための事業は何なのか。
- ・これまで、「子育て環境日本一」を推進してきた事業評価をどのようにしてきたのか。
- ・少子化・高齢化社会に取り組んでいる事業の中で、他自治体と異なる事業は何か。

○市長

・子育て環境日本一と標榜しているのだから、何をもって日本一なのかということを経済会議などでも質問をされます。日ごろから私が言っていることは「数字の争いはやるまい」ということ。自治体間競争という言葉がありますが、先駆けて事業を始めても、他の自治体が追随してくる。たとえば、料金や手数料などの争いになると、際限がなくなり、不毛な争いとなってしまいます。

住んでいる人たちが、龍ヶ崎市は子育て支援に熱心に取り組んでくれていると思ってもらえるような雰囲気づくりが大切だと考えています。

今では、市内に住んでいる人だけではなく、市外の人にも「子育て支援に龍ヶ崎市は頑張っているね。」と言われるようになりました。

現在、新たに佐貫駅前に送迎保育ステーションを検討しているところですが、これからも子育て環境日本一を目指して、事業を展開していきたいと考えています。

・市民アンケートを取ると必ず 3 つの問題が上がってきます。

一つは、子育てということだけではなく、公共交通の問題です。これは、費用が掛かりますが、充実をさせていく必要があると考えています。

一つは、医療機関の問題です。これは、小児科、産婦人科の問題があります。子育てには、小児科が充実していること。また、子どもを生むための、産婦人科の充実が必要ですが、市内で分娩できる場所は、済生会病院だけとなっています。

一つは、教育の問題です。来年度からは、教育制度の一部が見直され、

新たに総合教育会議が設置されます。今までの教育という観点だけではなく、市の考える子育てという観点からも議論ができるものと考えています。

○団体

子育て環境日本一ということであれば、基本的な子育て、医療の問題から、保育の問題などトータルに考えていかなければいけない。そういった観点では、市役所では、子育てに関して各部門間で考えを共有し市役所全体として対応しているのか確認したい。

○市長

市民の皆さんとも一緒につくった、ふるさと龍ヶ崎戦略プランでは、「子育て環境日本一」と「市民活動日本一」が最重要政策として位置づけており、全庁的な意識付けをしながら各種事業を展開してきました。

また、トータル的に事業を展開するために、政策推進会議などを利用しながら横断的な事業展開を図っています。

○団体

・空き家対策事業はテレビや新聞報道などで、最近頻繁に取り上げられている。龍ヶ崎市でもいろいろ検討済み、あるいは着手していることがあると思う。

まず、空き家の近くに住む人には、その実態を把握することができないので、非常に不安に感じている。その解消ためには、市で空き家についての情報を集めデータベース化する必要があると考えている。

次に、空き家のパトロールを定期的に行う仕組みを考える必要がある。市の職員が直接行うのではなく、NPO法人や一般の業者が行えればよいと考えている。

また、空き家は、ゴミという意識ではなく資産として考えれば、アプローチの仕方も変わってくると思う。家賃補助、通勤補助などにより子育て世代の支援を行い、空き家の利用をしてもらえば良い。

たとへば、上野駅から佐貫駅間を、特急フレッシュひたちを使うことで35分程度に短くすることができる。特急券は片道500円なので、この500円を補助する。この補助は、補助を受ける人の市民税の範囲で、子どもたちが高校又は大学卒業するまで行えれば、良いのではないか。

・小柴地区には、社宅が1棟丸ごと空いているような状況にある。社宅なので、市には直接関係がないが、そこをサービス付き高齢者住宅として、企画をしてもらえないかということ。

・中長期的な考えとして工業団地ですが、デジタルメディア関連企業が集まるまちづくりを進めていくことをお願いしたい。

○市長

・空き家対策については、ここ数年、各自治体でも深刻な問題として、取り上げています。空き家条例をつくっている先進的な自治体もありますが龍ヶ崎市では、これまでに条例策定のための検討を進めてきました。

このたび「空家等対策の推進に関する特別措置法」が制定され、その法律の中身も明らかになったところです。この法律の内容を確認したところ、あえて市の条例をつくる必要がないと考えております。今後は、龍ヶ崎市の実態に合わせて、法律を運用していくことが、大切であるとと考えております。

しかしながら、法律だけでは、解決できないこともあると考えておりますので、このたびの提言の内容も含めて、新しい政策を考えていきたいと考えております。

・市では、空き家バンクという制度はありませんが、平成25年9月から、宅地建物取引業協会と協定を締結し、市ホームページに、住宅情報サイトを開設しています。今後は、空き家バンクについては、検討しなければいけないと考えております

・データベース化は、「空家等対策の推進に関する特別措置法」のガイドラインが、今後示されてまいりますので、この法律を踏まえて、対応していきたいと考えております

・防犯対策や交通事故対策が強く求められるようになったことから、昨年の4月から危機管理室の交通・防犯業務を独立させ、交通防犯課を新たに作り、空き家対策もここが所管することになりました。

・社宅の空き家は、私も深刻な問題だと思っております。所有する企業の都合により、現在の状況があるものと考えています。そのようなことから、社宅については、サービス付き高齢者住宅などへの転用も含めて、社宅を所有する企業さんやその情報を持っている不動産屋さんなどが積極的な活用をはかっていただくことを期待しています。

・デジタルメディアが集まる拠点づくりは、皆さんからお知恵をいただいて、空き家対策とリンクできればいいと思います。

○団体

豊かなまちにするためには、人口を増やすことが必要だと考えているが、空き家がかかなり目立ってきている。これは、景観の面と防犯の面で問題だと思う。助成策をとって、空き家対策を進めていただきたい。それが人口問題の解決にもつながる。中でも、子育て世代に、助成をして空き家を、利用してもらおうことも、とても有効であると考えている。

今後は、空き家対策を市で積極的に取り組んでもらいたい。

○団体

・データベースをつくるにあたっては、特に佐貫駅やニュータウン地区の空き家、空き地の分布状況がわかるような資料をつくってほしい。その資料を基に、人口を増やすための対策を検討していくことが必要である。

・龍ヶ崎市に住むことの魅力づけをするとともに、積極的に市の宣伝をすることが必要である。魅力づけの中でも通勤手当の補助は、大変良いと考えている。

・佐倉市のユーカーが丘をぜひ、参考に勉強して欲しい。

・空き家のデータベース化は、データを集積するだけでなく、ホームページを利用して、外部に情報を公開して、利用してもらおうことも有効

である。

○団体

市の空き家率は、何パーセントか。

○市長

空き家といっても、どのようなものを空き家とするかということもあります。市としては、把握はしていません。

○市

全国のものを基とした統計資料は、担当課で持っていると思います。

○市長

リバーズモーゲージとか今、新しい施策、取組みが進められている。龍ヶ崎市に住み続けたくなる施策を行っていききたい。

○団体

空き家対策は、防犯対策として進めるべきものであって、人口増加とかということとは関係がない。交通防犯課の担当4人ぐらいの人間が、やっても、できるわけがない。全国的な問題だから、条例をつくってやるようにしなければ、こんなところで言ってもだめだ。

○市長

法律ができたので、これから動き出していきます。

○団体

・竜ヶ崎駅北の開発について、計画設定時と現状では近隣に大型ショッピングセンターや阿見のアウトレットの出店などがあり、商業環境が大きく変わっている。集客予想や採算性に対する予測は、現状にそぐわないと考えている。

・現在の開発計画の進捗状況を含めて、問題点について教えてほしい。
・今回の開発で松葉地区の商業集積地域との競争による、共倒れになる可能性がある。この件に関しては、どのように考えているのかということと、その松葉地区の商業集積地域は、事業形態というのは、第3セクターで、市も投資していると聞いている。市内で2つの商業地域をパラレルで稼働させることによって、採算性をどのように考えているのか。

○市長

・竜ヶ崎駅北の開発エリアは、興味を示して出店の意向を明らかにする事業者が多数ありました。この場所は、竜ヶ崎・潮来街道、土浦・龍ヶ崎線、佐貫停車場線もぶつかるという交通の要衝になっているところです。

・現在、竜ヶ崎・潮来線の南側には老人ホームが建設中ですので、このエリアを福祉エリアとかに位置づけして、関連する施設が集まってきてもらえると良いと考えています。そういう意味では、私が市長になった

ころと比べると、少しづつ動きだしているという認識をしております。
・龍ヶ崎市は、周辺地域に大型ショッピングセンターが多数あり、現在でもその影響があると思います。商業施設を運営する事業者は、民間企業ですので、綿密なマーケティングリサーチをされると思います。現在の商業環境を考慮した規模の商業施設ができるものと考えており、松葉地区の商業集積地域と共存できるようなものになると思っております。松葉地区の商業集積地域は、龍ヶ崎市民にとっても大切であり、大事にしていきたいと考えております。

・龍ヶ崎市は、主に4つの地域に人口が分散している。ここを市街地化することによって、連たん制が生まれてくる。たとえば、北竜台、佐貫地区もこの道路を含めて、段々近づいていくようになります。

・今、提言しているのが、市内で人口増のポテンシャルが最も高い佐貫駅の周辺、そこは駐車場が多くて、土地の高度利用がされていない。ここを、龍ヶ崎市を活性化するための中心にして、市内全体に波紋を広げていこうとする取組みを進めようとしているところです。

その一つの起爆材として、市の玄関口となっているJR佐貫駅の名称を自治体の名前が付いた駅名にしていこうということ、これは駅名を変えることがゴールではなくて、佐貫駅周辺を活性化するためのスタートになるものとして先行していきたいと考えております。

○団体

・サプラなどはすでに客を奪われている可能性がありますね。顧客を奪われないようにするには、サプラの機能強化、公共交通の充実、娯楽施設をつくる。龍ヶ崎市民がほかに行かなくなることを、市として取り上げていく必要があると思う。

・12月の「未来へ」は立派な文書だと思います。

・JR佐貫駅の駅名を変更することに反対する人もいるようである。私は、前から市の玄関口の駅名に自治体の名称が付いていないことで、恥ずかしい思いをしたことがある。家の表札がない家は、わびしい。

○市長

佐貫地区の人たちが駅名に愛着をもっていることは、当然のことだとは思いますが。しかし、龍ヶ崎市の玄関口の表札に、市の名前ではない、字名が入っているのはどうかと思います。

企業誘致に際して、企業の方々からは「市の玄関口となる駅名が佐貫では企業誘致には障害になる可能性が高い。」と言われております。

○団体

自治体の名前と駅名が違っていると、場所の特定がいつもぼやけるんです。

○市長

JR佐貫駅の名称変更反対をされる方もいますが、反対のための反対という人も出てくると思います。そういうときには、皆さんの応援で負けずにやっていきたいと思っております。